

2001年度日中医学協会共同研究等助成事業報告書

—学会開催に対する助成—

2002年 1月 7日

財団法人 日中医学協会
理事長 殿

報告者氏名 白東七七五
 所属機関名 日本医科大学 形成外科
 職 名 主任教授
 所 在 地 〒113-8603 文京区千石7-1-5
 電話 03 5814 6208 内線 _____

1. 学術会議の名称 第12回 日中形成外科学術交流会

テ ー マ 日本と中国に於ける形成外科学の学術交流

主 催 者 白東七七五 代表者氏名 白東七七五

期 間 11月9日 ~ 11月11日 開催地 東京

参加者数 日本側 95 名 中国側 47 名

招聘・派遣の目的 日中形成外科学術交流

2. 招聘・派遣研究者 人数 47 人 記入欄不足の場合は別紙を添付

氏 名	所 属 ・ 役 職	研 究 分 野
魯 開化	西安市西京医院整形外科中心・教授	形成外科学
高 建華	第一軍医大学南方医院・教授	
梁 建	深圳市福田区香密湖医院・副主任醫師	
蔡 景龍	山東大学濟魯医院・副教授	
宋 修軍	青島大学医学院市立医院・教授	
黄 金井	中国医学科学院整形外科医院・教授	
章 慶国	南京大学附属中大医院・副教授	
王 玉新	中国医科大学附属第一医院・教授	
林 子豪	上海第二軍医大学長征医院・教授	
薛 瑞蓉	呼和浩特教育科学研究所・副主任醫師	
他 38名		

3. 主な滞在日程

滞在期間 自 ¹¹13年 11月 9日 至 ¹¹13年 11月 12日

11月9日 夕 采日。
 11月10日 学会。
 11月11日 学会。
 観光(午後)

4. 学術会議報告書

別紙報告書作成要領に準じ、添付の用紙で成果・今後の課題等を報告して下さい。

抄録集・プログラム・写真等、学会に関する資料を添付して下さい。

5. 収支報告

交付を受けた金額 400,000 円

支出内訳(旅費・宿泊費・印刷費その他の科目別に記載、別紙可) 領収書コピーを添付すること。

科 目	金 額	備 考 (用途・内訳)
学会業者(経理、 入件費、材料 など)	3,540,000	メテカルコンベンション。
会場費	1,490,000	東京厚生会館。
宴会観光費	2,410,000	東天紅, はとバスなど。
印刷費	890,000	プログラムのなど。
その他	4,940,000	招待費用, 人件費, 通信費, 雑費など。

第12回日中形成外科学術交流会を主催して

主催者氏名	百束比古
日本所属機関	日本医科大学形成外科学講座（主任教授） 学校法人日本医科大学国際交流センター（長）
後援	社団法人日本形成外科学会

要旨

第12回日中形成外科学術交流会は、日中医学協会の助成のもとに2001年11月10、11日の両日、東京は上野の弥生会館において成功裡に開催された。参加者は日本から95名、中国から53名、他に日本から2名、中国から2名、またスイスから2名、豪州から1名の著明な形成外科医を講演者として迎えた。今回の特別講演は、東京女子医大野崎幹弘教授に食道癌手術後の発声再建まで考慮した遊離空腸移植術について、また中国側からは上海のZhong Gang（宋業光）先生には気管の同種移植の可能性について御講演頂いた。さらに、岡山大学の光嶋勲教授を招いて、トピックスである穿通枝皮弁について講演して頂いた。対応して、広州第一軍医学大学のGao Jian-hua（高建華）教授に世界に先駆けて開発した大腿部の穿通枝皮弁の解剖と臨床について多くの症例を供覧し教示して頂いた。招待講演としては豪州ローヤルプリンスアルフレッド王子病院形成外科主任であるDavid G. Pennington博士を招き、遊離腹直筋皮弁を用いた乳房再建の卓越した成績や、最新の血管吻合技術を供覧してもらった。またスイスはローザンヌ大学からDaniel V. Egloff先生とPatricia Roggero先生を招いて、欧州の熱傷形成外科や美容外科の趨勢について御講演頂いた。その他多くのパネルや特別企画を設け、日中が世界をリードしている分野の学術交流を行い、極めて有意義な学会であった。

Key Words 形成外科、学術交流、国際学会

緒言

本会は、1990年以来、毎年日中両国交互に開催されているもので、かつて日本では長崎（第2回：難波雄哉会長）、金沢（第4回：塚田貞夫会長）、東京（第6回：鬼塚卓弥会長）、盛岡（第8回：奈良卓会長）、大阪（第10回：上石弘会長）において開催された。また、中国では順に西安、上海、瀋陽、広州、重慶、済南で開催された。今回6年ぶりのわが国の首都開催とあって、中国の形成外科医の関心が非常に高く、予想を遙かに超える参加者であったことは主催者としては喜ばしい限りであった。

形成外科学における中国の進歩は瞠目すべきものがあり、かつて世界を驚嘆させた切断指再接着に見る卓越した手技のみならず豊富な症例から得られた洗練された手術結果を供覧させられ、今や世界における中国形成外科の水準が欧米やわが国と比較しても決して遜色がなく、寧ろその発展の加速度は経済と同様に孰れ世界をリードするであろうという予感さえ与えるものであった。さらに、今回からスライドも発表も英語を公用語としたことで、本交流会の国際学会としての意義も高まったと思われた。

概要と結果

本学会のテーマは、形成外科分野で日中が果たす役割を再認識し、その結果得られる成果を世界に向けて発信することである。実際これまでに特に皮弁外科の領域では日中の形成外科が世界をリードしてきたと言っても過言ではない。

今回の特別講演は、東京女子医大形成外科野崎幹弘教授に食道癌手術後の発声再建まで考慮した遊離空腸

移植術について、また中国側からは上海のZhon Gang（宋業光）先生には気管の同種移植の可能性について御講演頂いた。世界的に未だ再建方法が確立されていない領域であり、日中の形成外科が世界をリードしていることを再認識させられた。

さらに、現在世界的にみて若手形成外科医のトップリーダーといっても過言ではない岡山大学形成外科の光嶋勲教授を招いて、トピックスである穿通枝皮弁について講演して頂いた。対応して、広州第一軍医大学形成外科のGao Jian-hua（高建華）教授に世界に先駆けて開発した大腿部の穿通枝皮弁の解剖と臨床について多くの症例を供覧し教示して頂いた。いずれも、この分野では日中が常に世界に先鞭を付けてきたことを証明した。

招待講演としては 豪州シドニー大学ローヤルプリンスアルフレッド王子病院形成外科主任であるDavid G. Pennington博士を招き、遊離腹直筋皮弁を用いた乳房再建の卓越した成績や、最新の血管吻合技術を供覧してもらった。またスイスはローザンヌ大学からDaniel V. Egloff 先生とPatricia Roggero先生を招いて、欧州の熱傷形成外科や美容外科の趨勢について御講演を頂いた。アジア人以外の形成外科学の最新情報を得ることも本学会の極めて重要な目的であり、これら3人の先生には本学会の成功に対して多大な寄与を頂いた。

そのほかに、トピックスとして日中合作の世界的成果の一つである「超薄皮弁」とその血管解剖および血管束付加による発展について、また「生体充填用異物の新展開」について新しい材料の紹介と課題について検討と情報交換がなされた。さらに、組織工学(Tissue Engineering)のパネルでは米国留学経験者を含めた日中の新進気鋭の研究者5名が集い、世界のトップレベルの討論がなされた。さらに、性同一性障害(Gender Identity Disorder)のパネルも設けられ、両国での性転換手術の技術と社会的問題について討論された。性同一性障害の治療は、我が国の医療において臓器移植とともに国際的水準から遅れを取っている分野であり、同じアジア人であり我が国の10倍の人口を有する中国の実状を知ることは極めて有意義であり、かつ対策の急務を知らされた。

考察

本交流会は、日本形成外科学会および中国整形外科学会の後援のもと、毎年両国交互に開催されているものである。会を重ねて今回が第12回目となったが、その規模及び内容は発展の一途を辿っており、そこで得られた成果が世界に発信されて新たな技術開発の端緒となった例は暇がない。今回も例に漏れず、多くの新技術や新概念の披露がなされ、その成果は更なる進展を期待するものであった。とくに、今回の特徴としては、中国側の発表の殆どがコンピュータプレゼンテーションであったことである。従来中国側から示されたスライドは学術発表には不十分な粗雑なものが垣間見られたが、今回は寧ろ日本側のスライドより優れたものが多かったのは瞠目に値した、とともに隔世の感があった。また、今回よりスライドの発表も公用語を英語に統一したので、中国の若手の医師が多数発表されることができ、また発表の内容についても互いによく理解することができた。質疑討論のみ日中の通訳を入れたが、これは相互の理解と円滑な学会運営のためやむを得ない措置であったといえる。しかし、孰れはすべて英語で行うべきと考える。また、日中のみならず日中の形成外科に由縁のある豪欧の著明な形成外科医も交えた学術交流を行ったことも、アジアに偏らない情報を得ることで有意義であった。

学会以外では歓迎パーティーや総合懇親会においても、互いの旧交を温めたり新たな親交を深めたりと活発な交歓風景が繰り広げられた。また学会終了後、中国側の参加者を都内半日ツアーに招待した。折しも雨上がりの真空かと思まごう秋天の下、浅草雷門仲見世、東京塔、銀座と周回し、古い歴史を温存しつつ再生を繰り返す世界的大都会が全貌に亘って眼下にそして車窓にと大展開し、最後は銀座での晩餐と参加者には学会の締めくくりに相応しい極めて満足のゆくツアーであったとたいへんに好評を頂いた。

因に次回は2002年9月下旬、中国の六朝古都である美都南京において開催されることが内定しており、会長のJiang Huiqing（姜会康）先生においては、日本からできる限り多数の参加があることを熱望され、併せて熱烈歓迎の意向を示された。

謝辞：最後に本交流会を開催するために貴重な助成を頂いた、日中医学協会に深謝致します。

参考文献：

Situ,P: Pedicled flap with subdermal vascular network. Academic J. First Medical College of PLA. (Chinese) 6:60,1986.

Hyakusoku,H. & Gao,JH.: The super thin flap.Br.J.Plast.Surg.,47:457-464,1994.

Gao,J-H.,Hyakusoku,H., Akimoto,M. et al.:Experiences in using the super-thin flap. Jap.J.Plast.Reconstr.Surg.,35:1097-1103,1992.

Wang,YJ.,Chang,FQ.,Chen,WF. et al.: Experimental study and clinical application of subdermal vascular network flaps. J.Aesth.Plast.Surg.(Chinese),2:63~66,1992.

Hyakusoku,H.,Pennington,DG. & Gao,JH.: Microvascular augmentation of the super-thin occipito-cervico-dorsal flap. Br.J.Plast.Surg. 47:465-469,1994.

Gao,JH.,Hyakusoku,H.,Aoki,R. et al: An experimental study on the survival of random pattern flaps with a narrow skin pedicle in pigs;Comparison of survival and blood supply in thick flaps with various pedicle widths. J.Jpn. P.R.S,19:553-559,1999.

Gao,JH,Hyakusoku,H.,Aoki,R. et al.: A study of survival on random pattern flaps with narrow pedicle; Comparison in the thinned flaps with various pedicle width and between thinned flap and conventional thick flap. J.Jpn. P.R.S.20:233~238,2000.

Koshima,I, Fukuda,H., Yamamoto,H. et al.:Free anterolateral thigh flaps for reconstruction of head and neck defects. Plast. Reconstr. Surg.,92:421-428,1993.

Kuran,I.,Turan,T.,Sadikoglu,B et al.:Treatment of a neck burn contracture with a super-thin occipito-cercico-dorsal flap:a case report.Burns,25:88-92,1999.

Pennington D.G., Lai M. and Pelly A.D: The rectus abdominis myocutaneous free flap. Br. J. Plast.Reconstr.Surg., 33,277-282,1980.

Koshima,I., Higaki,H., Kyou,J. & Yamasaki,M.: Free or pedicled rectus abdominis muscle perforating artery flap. Jpn.J.Plast.Reconstr.Surg.,32:715~719,1989.

Koshima,I,Moriguchi,T.,Soeda,S. et al.:Free thin paraumbilical perforator-based flaps: Ann.Plast.Surg.,29:12-17,1992.

Nakajima,H.,Fujino,H,Adachi,S.:A new concept of vascular supply to the skin and classification of skin flaps according to their vascularisation. Ann. Plast.Surg. 16:1-17,1986.

第12回日中形成外科学術交流会抄録集